

主な自然地形

地形分類	土地の成り立ち	地形から見た自然災害リスク
砂州・砂丘 (※1)	主に現在や昔の海岸・湖岸・河岸沿いにあり、周囲より高い砂礫質な土地。波によって打ち上げられた砂や礫、風によって運ばれた砂が堆積することでできる。	通常の洪水では浸水を免れることが多い。強い地震による液状化の発生傾向は砂州ではやや強く、砂丘ではやや弱い、砂丘縁辺部では非常に強い。
台地・段丘 (※2)	周囲より階段状に高くなった平坦な土地。周囲が侵食により削られて取り残されてできる。	河川氾濫のリスクはほとんどないが、河川との高さの差が小さい場合には注意。縁辺部の斜面近くでは崖崩れに注意。地盤は良く、地震の揺れは小さい。液状化の発生傾向が弱い。
氾濫平野・海岸平野 (※3)	起伏が小さく、低くて平坦な土地。洪水で運ばれた砂や泥などが河川周辺に堆積したり、過去の海底が干上がったたりしてできる。	河川の氾濫に注意。地盤は海岸に近いほど軟弱で、地震の際にやや揺れやすい。強い地震による液状化発生傾向は海岸平野で強く、氾濫平野ではやや強い。沿岸部では高潮に注意。
旧河道	かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後に砂や泥などで埋められてできる。	河川の氾濫によって周囲よりも長期間浸水し、水はけが悪い。地盤が軟弱で、地震の際の揺れが大きくなりやすい。特に埋立（盛土）した地域では液状化の発生傾向が非常に強い。

主な人工地形

地形分類	土地の成り立ち	地形から見た自然災害リスク
盛土地・埋立地	周囲の地表より高く盛土したり谷のような凹地に盛土したりして造成した土地や、海水面などの水部に土砂を投入して陸地にした土地。	高さが十分でない場合には浸水のリスクがある。山地や台地では降雨・地震により地盤崩壊のリスクがある。低地では液状化のリスクがあり、海や湖沼・河川を埋め立てた場所では特に注意。

(※1) 数値地図25000(土地条件)の凡例では「砂州・砂堆・砂丘」。

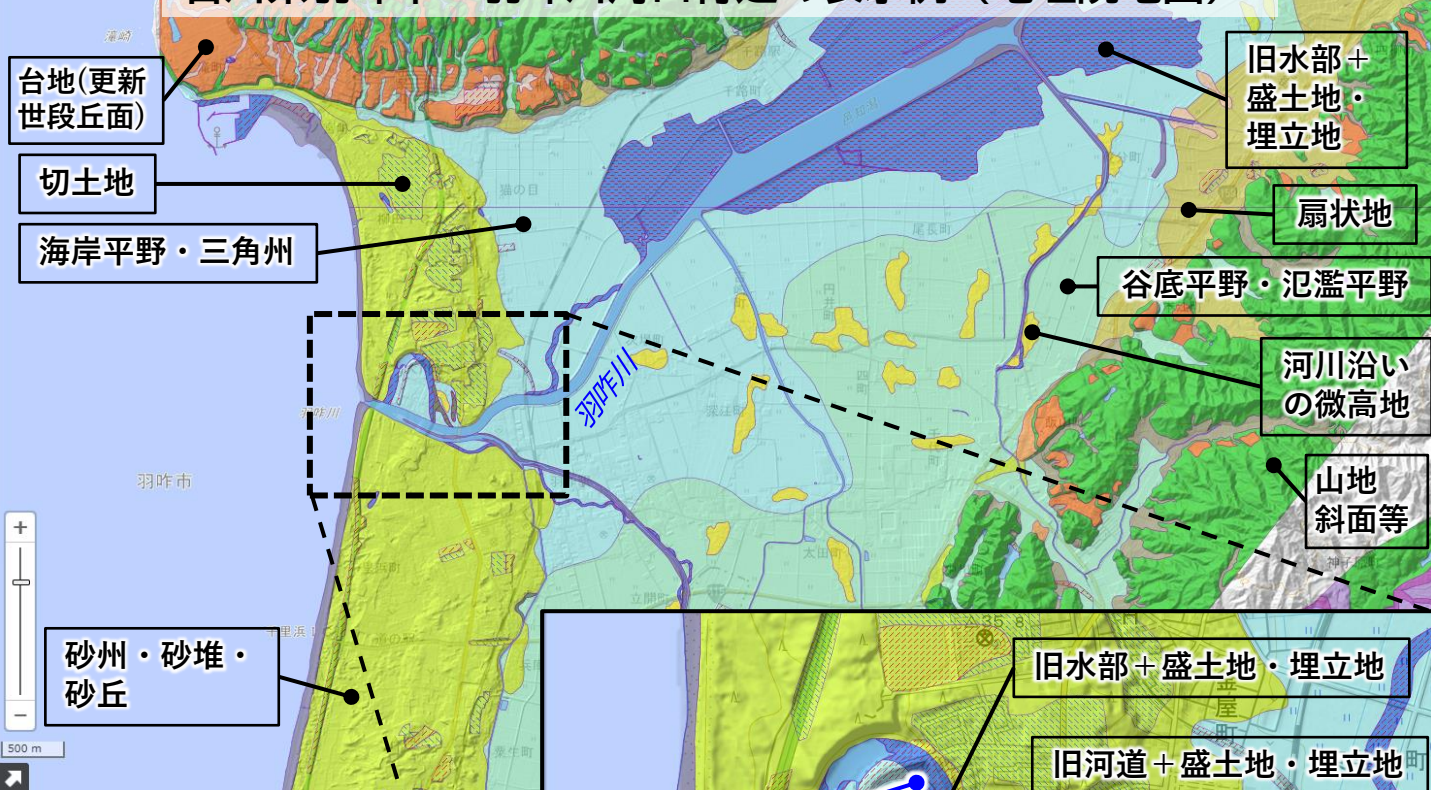
(※2) 数値地図25000(土地条件)の凡例では「台地(更新世段丘面)」や「台地(完新世段丘面)」など。

(※3) 数値地図25000(土地条件)の凡例では「谷底平野・氾濫平野」や「海岸平野・三角州」。

上記以外の地形分類と自然災害リスクの対応関係については、以下のページをご覧ください。

< https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lfc_index.html >

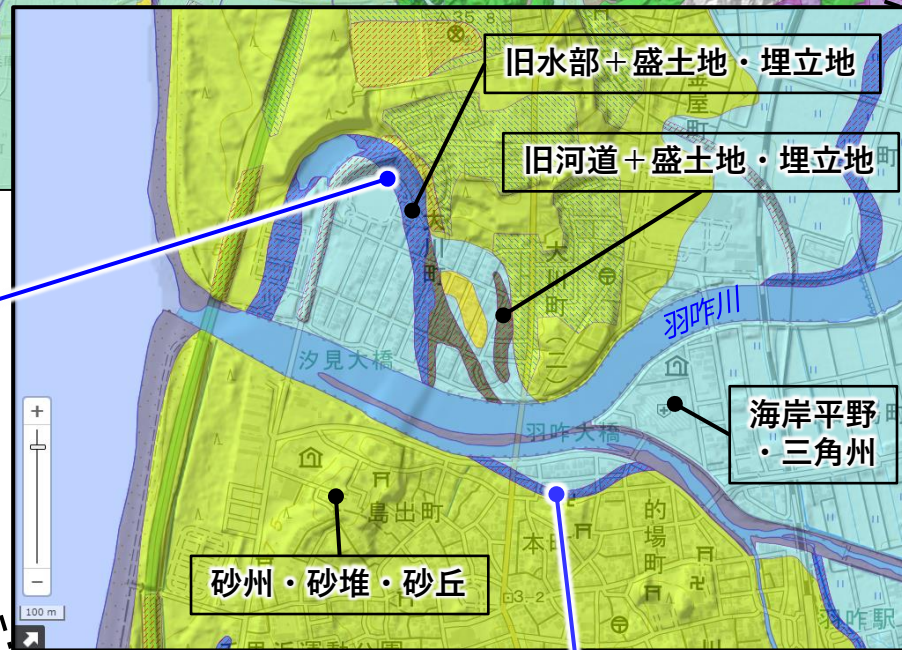
石川県羽咋市 羽咋川河口付近の表示例（地理院地図）



旧水部の盛土地・埋立地における液状化に伴う亀裂と噴砂
(令和6年4月25日 国土地理院撮影)



- この地域では、海岸沿いに砂州・砂堆・砂丘が発達しています。また、羽咋川沿いにはそれを削るようなかつての河川(旧水部や旧河道)を埋め立てたり盛土したりした箇所が帯状に分布しています。
- 旧水部や旧河道の盛土地・埋立地では、強い地震による液状化の発生傾向が非常に強いと言われており、令和6年能登半島地震では実際にこれらの場所で多数の液状化被害が発生しました。



旧水部の盛土地・埋立地における液状化に伴う側方流動と噴砂(令和6年4月25日 国土地理院撮影)

